

科目名	基礎看護実習 I	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	臨地実習		実習			1年	
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	40時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務経験	有・無		
授業の目的・ねらい 病院施設の概要、看護の対象の入院環境と療養生活を理解する。							
生徒の到達目標 1. 病院・各部署の概要がわかる。 2. 入院患者の生活環境がわかる。 3. 入院患者の快適な療養環境の調整方法が理解できる。 4. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる。 5. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる。 6. 看護実習生としての自覚と責任を持ち行動できる。							
授業概要（授業計画） 実習要綱参照							
履修条件 実習開始までの科目履修。基礎看護技術の学内演習履修。							
成績評価方法 出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。							

科目名	基礎看護実習Ⅱ	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	臨地実習		実習			1年	
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	170時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務経験	有・無		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護の対象（受け持ち患者）の基本的ニーズを理解し、日常生活援助が実施できる。准看護師としての倫理的判断・行動をするための基礎的能力を養う。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象（受け持ち患者）の日常生活状況が把握できる。 2. 観察技術を通して基本的なフィジカルアセスメントの方法を理解できる。 3. 看護の対象者（受け持ち患者）の日常生活援助が指導者とともに実施できる。 4. 看護の対象（受け持ち患者）および家族と意図的コミュニケーションを図ることができる。 5. 看護の対象（受け持ち患者）の治療を通して、診療の補助技術の方法を理解できる。 6. 看護実習生として望ましい態度、責任ある行動がとれる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習要綱参照</p>							
<p>履修条件</p> <p>実習開始までの科目履修。基礎看護技術の学内演習履修。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。</p>							

科目名	成人・老年看護実習 I	必修	授業形態			開講時期	
区分	臨地実習		実習			1年	
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	50時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務経験	有・無		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成人・老年期にある受け持ち患者との人間関係を成立させ、発達課題等を考慮しながら対象を統合的に理解する。</p> <p>ヘンダーソンの枠組みを用いて、疾患を持つ受け持ち患者を日常生活行動から考察し、受け持ち患者のニーズを理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者の健康障害による身体的・心理的・社会的な変化が理解できる。 2. 受け持ち患者の情報をヘンダーソンの枠組みを用いて整理し、ニーズおよび目標が理解できる。 3. 看護師に同行し、受け持ち患者の日常生活援助を実施し、受け持ち患者にあった日常生活援助の計画を立案することができる。 4. 看護師に同行し、チーム医療における看護師の役割を理解する。 5. 看護実習生として望ましい態度、責任ある行動がとれる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習要綱参照</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。</p>							

科目名	成人・老年看護実習Ⅱ	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	臨地実習		実習			2年	
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	120時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務経験	有・無		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>急性期・回復期にある成人・老年期の人を対象とし、入院・治療が及ぼす影響を考慮しながら社会復帰に向けた援助方法について理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期・回復期にある成人・老年期の人を受け持ち患者の身体的・心理的・社会的な側面に及ぼす影響を理解できる。 急性期・回復期にある受持ち患者の看護過程（アセスメント（分析）・看護問題・計画立案・実施・評価）を看護師と共に展開する。 看護師に同行し、急性期・回復期で実施されるチーム医療での看護師の役割を理解する。 看護実習生として望ましい態度、責任ある行動がとれる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習要綱参照</p>							
<p>履修条件</p> <p>基礎看護実習の履修、関連科目の履修。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。</p>							

科目名	成人・老年看護実習Ⅲ	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	臨地実習		実習			2年	
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	120時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務経験	有・無		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>慢性期・終末期にある成人・老年期の人を対象とし、障害やその疾患をコントロールしながらセルフケア能力を高めるための看護援助を学ぶ。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性期・終末期にある成人・老年期の人を受け持ち患者の身体的・心理的・社会的な側面に及ぼす影響を理解できる。 慢性期・終末期にある受持ち患者の看護過程（アセスメント（分析）・看護問題・計画立案・実施・評価）を看護師と共に展開する。 看護師に同行し、慢性期・終末期で実施されるチーム医療での看護師の役割を理解する。 看護実習生として望ましい態度、責任ある行動がとれる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習要綱参照</p>							
<p>履修条件</p> <p>基礎看護実習の履修、関連科目の履修。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。</p>							

科目名	老年看護実習 I	必修	授業形態			開講時期	
区分	臨地実習		実習			2年	
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	70時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務経験	有・無		
授業の目的・ねらい 介護老人保健施設で生活する高齢者の特徴と健康レベルを把握し、対象に応じた援助を学ぶ。							
生徒の到達目標 1. 介護老人保健施設の概要および、施設の役割が理解できる。 2. 老年期にある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解できる。 3. 老年期にある対象の自立に向けた日常生活の支援の方法を理解する。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の機能と役割について理解する。 5. 看護実習生として望ましい態度、責任ある行動がとれる。							
授業概要（授業計画） 実習要綱参照							
履修条件 基礎看護実習の履修、関連科目の履修。事前学習の完成。							
成績評価方法 出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。							

科目名	老年看護実習Ⅱ	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	臨地実習		実習			2年	
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	25時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務経験	有・無		
授業の目的・ねらい 地域で暮らす高齢者を身体的・社会的・心理的な側面から理解し、生活に対する思いや健康レベルに応じた看護の必要性について理解できる							
生徒の到達目標 1. 介護老人保健施設の概要および、地域の特性などに応じた施設の役割が理解できる。 2. 地域で生活する（デイサービスを利用する）高齢者の生活状況を理解する。 3. 地域で生活する（デイサービスを利用する）高齢者に関わり、機能の維持・回復を考慮した日常生活の支援方法や自立に向けた支援方法、家族ケアの方法を理解する。 4. 介護老人介護保険施設における保健・医療、福祉メンバーの役割が理解する。 5. 看護実習生として望ましい態度、責任ある行動がとれる。							
授業概要（授業計画） 実習要綱参照							
履修条件 基礎看護実習の履修、関連科目の履修。事前学習の完成。							
成績評価方法 出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。							

科目名	母子看護実習 (母性看護実習)	必修・選択	授業形態			開講時期	
			実習			1年	
区分	臨地実習						
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務 経験	有・無	時間	40時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務 経験	有・無		
授業の目的・ねらい 母性看護における准看護師の役割について理解する。 妊産褥婦と新生児の特徴を理解し、対象に応じた看護が実践できるよう基礎的能力を養う。							
生徒の到達目標 1. 産科病棟の特殊性について理解できる。 2. 正常な妊娠・分娩の経過を理解し、妊産婦に対する基本的な援助について理解できる。 3. 正常な産褥および新生児期の経過を理解し、褥婦および新生児に対する基本的な援助について理解できる。 4. リプロダクティブヘルスに関する問題に関心を持ち、適切な看護・保健指導について理解できる。 5. 自己の母性観（父性観）を深めることができる。 6. 看護学生としての自覚と責任を持ち行動できる。							
授業概要（授業計画） 実習要綱参照							
履修条件 基礎看護実習の履修、小児看護の科目履修。							
成績評価方法 出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。							

科目名	母子看護実習 (小児看護実習/病院)	必修・選択		授業形態		開講時期	
区分	臨地実習			実習		1年	
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務 経験	有・無	時間	8時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務 経験	有・無		
授業の目的・ねらい 健康上の問題を持つ子ども及び家族に対する看護実践に必要な能力を養う。							
生徒の到達目標 1. 小児科外来の特性を学び、小児看護の役割を理解することができる。 2. 健康障害をもつ小児および家族に対し、成長発達に応じた援助技術を理解する。 3. 看護実習生としての自覚と責任を持ち行動できる。							
授業概要（授業計画） 実習要綱参照							
履修条件 基礎看護実習の履修、小児看護の科目履修。							
成績評価方法 出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。							

科目名	母子看護実習 (小児看護実習/保育所)	必修・選択	授業形態			開講時期	
			実習			1年	
区分	臨地実習						
担当者	田淵正実・青野容子	資格	看護教員	実務 経験	有・無	時間	24時間
担当者	山内 幹	資格	看護教員	実務 経験	有・無		
授業の目的・ねらい 保育所に通う健康児と関わり、成長発達段階を理解し、乳幼児の保育の方法を学ぶ。							
生徒の到達目標 1. 乳幼児の保育環境を理解できる。 2. 乳幼児の発達段階がわかる。 3. 発達段階に応じたコミュニケーションと日常生活援助の方法が理解できる。 4. 保育士に同行し、乳幼児の安全を守るための環境整備の方法がわかる。 5. 看護学生としての自覚と責任を持ち行動できる。							
授業概要（授業計画） 実習要綱参照							
履修条件 基礎看護実習の履修、小児看護の科目履修。							
成績評価方法 出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。							

科目名	精神看護実習 I	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	臨地実習		実習			1年	
担当者	青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	45時間
担当者	渡邊恵子	資格	看護師	実務経験	有・無		
授業の目的・ねらい 精神障害をもつ対象とその家族を理解し、健康に向けて援助できる基礎的能力を養う。							
生徒の到達目標 1. 病院・各部署の概要がわかる。 2. 入院患者の療養環境を理解し、調整方法が理解できる。 3. 対象（受け持ち患者）の全体像を把握し、精神疾患をもつ対象を理解できる。 4. 看護師が行う看護ケアに同行し、精神看護活動の実際がわかる。 5. 精神障害を持つ対象のプライバシーを保護し、コミュニケーションの図り方がわかる。 6. 看護師に同行し、精神科における多職種連携がわかる。 7. 看護実習生としての自覚と責任を持ち行動できる。							
授業概要（授業計画） 実習要綱参照							
履修条件 基礎看護実習の履修、精神看護の科目履修。							
成績評価方法 出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。							

科目名	精神看護実習Ⅱ	必修・選択		授業形態		開講時期	
区分	臨地実習			実習		1年	
担当者	青野容子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	25時間
担当者	渡邊恵子	資格	看護師	実務経験	有・無		
授業の目的・ねらい 地域で生活している精神疾患を持つ対象者とその暮らしについて理解する。							
生徒の到達目標 1. 精神科デイケアの機能と役割について理解できる。 2. 精神疾患をもつ対象者の退院後の暮らしについて理解できる。 3. 精神疾患をもつ対象者が生活するための支援の方法理解できる。 4. 施設における精神保健医療福祉チームの連携について理解できる。 5. 看護実習生としての自覚と責任を持ち行動できる。							
授業概要（授業計画） 実習要綱参照							
履修条件 基礎看護実習の履修、精神看護の科目履修。							
成績評価方法 出席時間、実習内容、実習記録、実習態度などにより総合的に判断する。							